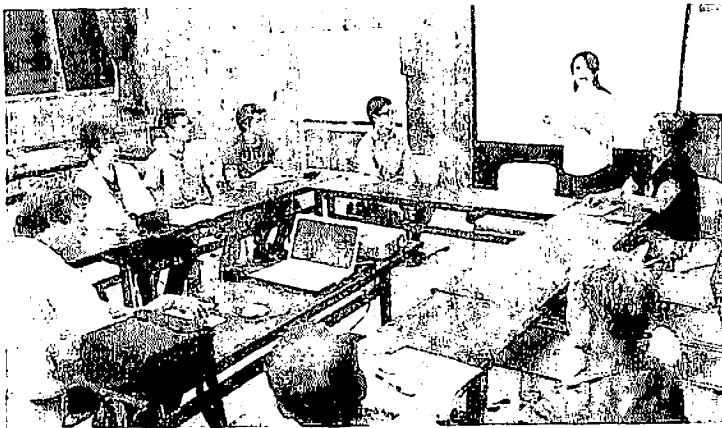


九州北部豪雨災害の復興支援ボランティア

群大生が活動報告

協会で  
ボランティア  
市定例会



活動の報告を行う学生たち（桐生市総合福祉センターで）

7月に発生した九州北部豪雨を受けて現地で支援活動を行った群馬大学の学生はこのほど、桐生市総合福祉センターで開かれた同市ボランティア協議会（宮地由高会長）の定例会に出席し、活動報告を行った。出席した5

【メモ】▽九州北部

豪雨は7月5日から6日にかけて福岡、大分などの九州北部を襲った集中豪雨。土砂崩れや増水などで大きな被害をもたらした。

人の学生は被災地の現状や人とのふれあいで

ボランティアに呼び

かけて行われた今支援月15、18日にボランティア災害ボランティア積立活動。被災地には、8員1人と学生7人、19金から助成された。



報告から

ボランティアを通して

北爪亜斗夢（群大理工学部2年）

ボランティアを前に活動報告をする北爪亜斗夢さん

度進んでいたが、いまだあたり一面は土砂の「茶色」で覆われていました。現地の公民館で災害前の現地の写真を見ましたが、自然豊かで美しい場所でした。活動は2日間。内容は流

く、悪臭にも悩まされまし

活動して感じたのは、ボランティアの人や現地住民がくじけず前向きに団結しているということです。印象的だったのは、頻りに飛び交う「気長に、協力してやっつけよう」という声。この姿勢が根本にあるからこそ、災禍にも立ち向かえるのだと、気づかされました。

8月19日から22日にかけて九州北部豪雨の被災地に向かい、現地で支援活動を行ってきました。

まず、現地に着いて驚かされたのが「被害の大きさ」

です。民家には約40センチの高さの土砂が堆積していて、トンネルには自分の背丈を越える土砂が積もった形跡

があつたのです。流された家屋や流木の撤去はある程

れ込んだ土砂のかき出しが中心でした。家屋の床下や隙間に入り込んだ土砂を、スコップやバケツ、一輪車を使ってひたすら運び出す

作業。土砂は水を含んで重

「何か役に立ちたい」と取り組んだ活動ですが、多くのものを与えられています。復興へはまだまだ時間がかかります。多くの人が現状を知り、より支援が行われたらと願います。

われたらと願います。